

幼 兒 教 育

第 二 十 一 卷 第 一 號

大 正 十 一 年 十 月 五 日 發 行

目 次

社會の趨勢と本會の計畫	湯 原 元 一
幼兒保護に關する諸問題	生 江 孝 之
兒童觀の變遷	高 島 平 三 郎
幼稚園教育と兒童保護事業	小 澤 一
託兒所の實際	丸 山 千 代
我子に試みつくある一二	樫 田 千 惠 子
童話の撰擇とその心理的基礎	青 木 誠 四 郎
此頃思ふこと	甘 粕 な べ 子 林 ふ く 子
風あげ	池 田 と よ
婦人共立育兒會について	一 會 員
街上雜觀	み ど り
雜 報	
少年音樂家	岡 田 美 津

日 本 幼 稚 園 協 會

謹賀新年

大正十年元旦

日本幼稚園協會

本誌定價

一册(郵稅共)金貳拾五錢 六册 前金壹圓五拾錢
十二册 前金 參 圓 (郵券代用壹割増)

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ
込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六
番)

大正十年一月十二日印刷

大正十年一月十五日發行

東京市下谷區花園町一番地
編輯兼發行者 黒 瀬 艶

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴 山 則 常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 杏 林 舍

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

廣島高等師範學校訓導 山本壽・橋本留喜・田上新吉先生共著

學に樂 校と與 及純清 びなへ 庭無に 家庭邪 於氣一 於高の いて向 兒尚教 童悅養 書養書

學習院 小松耕輔先生 東京第一中學教諭 梁田貞先生 東京音樂學校講師 葛原滋先生 共著

歌唱劇

第一集

舌切雀

(評好)

第二集

かろうもり 狐と虎

(刊新)

第三集

花咲爺

(刊新)

大正少年唱歌

第五集出來

第一集

花と春の生徒 学校の生徒 友と春の生徒

箱カナリ 蓮と葉の

第二集

星勝った龜の子 夕公星勝った龜の子 咲や 爺け園

私親の牛の子 親の牛の子 したばるりお家

第三集

春梅のの 羽さ私梅春のの

花村花 舟村花

水金 蟬だ水金の

砲魚 朝ま砲魚

天の岩屋 花さの岩屋 水さの岩屋

白ワ 鹿の白ワ

鳥 水カク 水カク

第四集

コスモス 那典一 大正三 加藤兄弟 我藤兄弟

定價各冊金貳拾錢 郵稅各冊金貳錢

發行所 東京市橋區南馬場二丁目 目黒書店 振替口座東京第二〇九番

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ

幼童
雜誌

良友

童話

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選べるやであらうか。

單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に任して置いてよいであらうか。

發行所

東京市小石川區
東林町五十七番地

社モドコ

電話 六一八二
小石川 二九一八

幼 兒 教 育

第二十一卷
第一一號

大正十年一月十五日發行

社會の趨勢と本會の計畫

○先づ地固めが必要

近來は、學校問題といへば、どうも上の方に延びることに急で、高等専門教育機關の施設といふことが盛んに計畫され論議される。勿論、これも、大切であるが、しかし、一方に下の方の教育を忘れてはならぬ。家をたてるまへには、先づ地固めが必要である。その上にたつ建築が複雑になるほど地盤がしつかりしてゐなければならぬ。高等教育を完全にしようとするには、その土臺の注意が大切である。いつの間にか、教育は小學校から初まるものゝ様にしてしまつて、口には、家庭教育の何のといひながらその方法如何は、考へられてゐない。幼稚園は出來た、しかも、まだ、これに關する法律も一向整理されて居らず、保姆の待遇の規定も曖昧で、政府のこ

日本幼稚園協會長 湯 原 元 一

れに對する態度は、遺憾ながらまだ、徹底してゐない。このことは、實に年來の宿題で早く解決しなければならぬし、また一方、幼稚園の教育といふものも今迄のまゝで満足して居るわけには行かぬ。

○託兒所の保姆

しかるに、今や兒童の問題は、たゞに、有福な家の子供を集めて保育するといふこと以外に、貧兒の保護といふ問題になつて來た。兒童保護問題は、社會問題の重要な位置をしめることゝなり、政府はこの事に關しては、相當の費用を出して、著々そのことに従事するに至つた。しかして、兒童保護の問題に必要なことは、先づ託兒所の設施といふことである。しかし託兒所は出來ても、そこに働く保姆にその人を得なければ何うもならぬ。

そこで我が日本幼稚園協會は、たゞに從來の幼稚園に關しての諸種の研究を繼續するにとゞまらず、更に、託兒所の方面に向つても大に注意して、その完成のために貢獻するところあらねばならぬ。今迄あるところの保母養成機關で満足しては居られぬ。即ち本會は當局の了解を得て、託兒所むきの保母養成に著手したく、本年はその實行のために努力したのである。これは本會の計畫してゐる事業の一斑にすぎないがもつと必要なことは國民一般に

○兒童保護についての注意を促す

氣運をつくるといふことである。それには、本會が、此處に聲を大にして、その趣旨の普及徹底に力をつくしたいと思ふ。本會が今度全國の學校關係は勿論、工場主やその他、感化事業、保護事業など、苟も兒童に關係ある方面に、趣意書ならびに會員募集の書面を送つたのはこのためである。

こればかりではない。その宣傳の第一歩として、本年一月を期して、子供デーを催したいのである。それに關する具體的の案については、追つて他の方法で發表するつもりであるが、まづ、私一個の考へ

としては、この子供デーには大講演會を開き、社會知名の士を聘して、兒童教育が如何に大切であるかといふことについての講演をねがふつもりである。

その他本郷區を初め東京市各區に於て一齊に講演會を開くようにしたい。又、種々の婦人團體の方々にお願ひして、充分に活動をして頂きたいと考へてゐる。

婦人と子どもとは、離れがたい關係があるもので婦人の力によつて、是非、この空氣を、家庭の隅々まで入れてほしい。また、上流、中流、勞働者のその階級の如何をとはず、子供を丈夫に賢く育てるといふことが、如何に大切なことであるかを想ひ、しかして貧しいために、その愛兒を充分養育出来ないといふことは誠に殘念な悲しむべきことであるから工場に關係ある方々には、女工達の家庭に、貧民救濟に従事してゐる方々には、その人々の間に、この思想の普通を計つて頂きたいと思つてゐる。

當日は市内に宣傳ビラを配るため、兒童教育の大切な意味を格言にして印刷配布したいと思ふ。學校教育者、婦人團體、内務、文部、農商務各省、市當局等總が、よりで大々的にやりたい積りである。この計畫のためには切に諸賢の贊助後援を願ふ次第である。

(文責記者)

幼兒保護に關する諸問題

内務省囑託 生 江 孝 之

一、幼兒の保健……特に齒の衛生

近來、幼兒保護問題について、その教育的方面に力をそゝいでゐるは勿論であるが、また、幼兒の保健といふことに、餘程、重きをおく様になつた。その初め、母親相談所といふものは、乳兒に限られて居つたのが、此頃では、學齡に達する迄の間を乳兒と同じく健康増進のために、種々力をいたすようになった。従つて、この時期における子供の死亡率の減少も、事實の上で示すに至つた。これはかの一九一八年における米國の兒童の年チルドレン・イヤー(註、これは本誌に嘗つて記載したが、この一年間を米國全體が特に兒童のために各方面の活動をしたのである)においても、學齡期迄を標準にしたので、これら兒童の健康状態を調査したのを見ても、乳兒のみならず幼兒をも勿論考へてゐることが明らかである。

ことに、米國では特に、齒の治療所を設けて、幼兒の齒の發生の時の取扱ひ及び齒の衛生に力をつけて居る。これまで、齒が身體に及ぼす影響についてはあまり注意を拂はなかつたのであるが、齲齒カリエスのために、幼兒期のみならず、成長後に及ぼす影響は甚大なもので、仕事の能率を減じ、また、齒の治療には費用を多く要するために、生活の安定を襲ふこともなるのである。齒の發生期の不注意と其後の不衛生が齲齒を生ずる原因となるが、ことに米國では、齲齒の多い原因の他の方面がある。それはある人の話によると、人種の異つたものゝ結婚によるためであるが、しかし、これは明らかにわかつたことはいへない。兎に角、文明の進むにつれて、糖分を用ふることが多いといふことが齒をわるくする大きな原因となる。齒の衛生といふ點に歐米の各國が努力して來たことは、幼兒保護の上に注意すべきことである。我が國でも近來、餘程、子供の齒といふこ

とには、衛生上注意を促すいろ／＼の企てがある、まことによるこぼしいことで、幼児の保健といふことは、誠に大切なことである。

二、私生兒の保護

また、乳兒幼児に關して、私生兒の問題がある。

歐米に於ては、戰後、國家といふ立場から、この問題は、目下餘程重大なこゝとなつて來た、私生兒に對しては、その母の不倫の行爲をせめるところからその不道德の結果を憎むといふ感情から、習慣の上でも法律の上でも保護を興へぬ。その母親も、世間から退けものにされる、したがつて私生兒の死亡率といふものは、一般の乳兒幼児のそれに比して、三倍にも達して居る。よし死亡するに到らぬ迄も弱き身體を有し、精神上にも、不完全なものが多い、不良少年、犯罪者などになりやすいといふことも、事實が示してゐる。

しかるに、戰後、兒童保護問題の喧傳せられるに至つた今日、母の不倫行爲と、その結果としての子供といふものを切りはなして、子供を獨立に考へよといふことが主張されるに至つた。たゞひ、母の行

爲が不道德であつたにせよ、生れ出たその子供は、何にもしらないで生れたので、他の子供同様に、保護を興へねばならぬ。といふ考へ方が優勢になつて來た。そのため、この問題に對しても、諸説おこり、かの、英國のごとき、これ迄母の行爲そのものに重きをおいて居た國でさへ、近來は、生れた子供の保護に重きをおくといふ様になつた。

米國は、最近、中央政府の兒童保護局では、特に二回ほど、委員會を催して、全國から専門家を招きシカゴ市、その他に於て特別集會をなし、何れも、私生兒保護に重きをおいたのである。また一九一九年に、ワシントンに開かれた國際労働會議に於ても妊婦に對し、前後六週間づゝの保護を協定した際に、その妊婦は、有夫と否とを問はずといふ事であつた、その善し悪しは別として、生れた子供を保護するといふ考へに於ては發達してゐるといふことが出来る。

要するに、乳兒及幼兒の保護については、各種の方面から徹底的に研究して、保護を充分ならしめんとすることは、その機大に熟して來たといひ得る。米國が先に、兒ガールズ童年を開いた結果の一端につい

て見れば、これをする以前は、四十八州の中で、保護に關する特別機關を設けておつた州は、僅かに九州にすぎなかつたものが、一九二〇年五月一日には三十二州の多きに達した。これによつても、米國全體として、如何にこれに注意してゐるかを知らることが出来る。又、この兒童年の後、その保護事業を繼續的にやつておるのが、今では、四十八州の中三十八州に及び、その他に三つのテリトリリー Territory (また州としての權利を與へられない地方) も加へておるから、この事業の繼續が如何にひろく、熱心に行はれてゐるかゝわかる。

三、「小やわ母の會」

尙、これらのことに加へて申上度きは、かの紐育の兒童局長ベツガール女史が嘗つて一九〇八年に紐育市の小學校内に「小やわ母の會」を起したことである。これは、十二歳以上の女生徒に、十二週間内外でおはる程度(一週に一回)に於て母親になつた時に如何に乳兒を取扱ふかといふことを、専門の醫師を聘して、講習をしたのである。これが、大に世の注意を喚起して、その講習をうけた少女を通じてその

家に影響を及ぼし、母親達が、その子供の習つて來た事によつて幼兒乳兒の取扱ひをおぼえるといふことになり、評判がよく、その後、この種の事業が發達して、紐育市だけに既に二四〇もこの會が出来たその他、多數の都市でもこれを今や實施しつゝあるこの方法は日本にも必要なことと思ふ。

四、乳兒週間

話はまた移るが、乳兒週間ベビースウィークといふ事を一寸述べよう。これは、一週間の間、ある地方をきめて、乳兒保護の大宣傳を行はんとするのである。初め、一九一四年にシカゴ市に起り、爾來各地にこの週間がまもられるようになり、一九一六年にはナシヨナル、ベビースウィーク(National baby's week)即ち米國全體の都市(二〇〇〇の大都市)に乳兒週間を實施し、二百萬の婦人と各市のいろ／＼の團體とがこの舉を援助して、協力この事業を行つた。この時には、或は講演會を開き、活動寫眞、幻燈を映じて一般に觀せ、目立つような貼紙をいたる所にしたのは勿論、ある場所には特に裝飾をしたり、樂隊入りで宣傳ビラを撒布したり、又、更に、特に作つた鈕を賣つて

その主旨の徹底をはかつた。これがまた、乳兒、幼兒の保護の上によい影響を及ぼしたるは大したもの、やがて、英國でも、これに倣つて一九一七年にやはり、ナショナル、ベビースウィークを實行した。時の宰相ロイドジョージ氏を會長とし、これは、また、英國風にいろいろ宣傳した。この國では特に、乳兒の死亡の防止、その率の減少といふことを目標としたのであるが、これまた世人の注意を喚起し、乳兒幼兒の保護を今更のようになさらしめたといふ効果は大であつた。

要するに、海外では殊に數年前から乳兒幼兒の保護を心身兩方面から徹底的になさんとするため大に努力してゐる状態である。

日本でも乳兒死亡の増加は勿論、幼兒の死亡も英佛等に比すれば二倍にも及んでゐることを考へてもまことに保護事業の振はぬこと、これに關する教育も及ばざる點多きを思ふのである。しかし、必ずしも外國にまねる必要はない、日本はその獨特の見地から乳兒幼兒の心身の發達をよくすることの必要は今や目前にせまつた急務といはねばならない。

幼兒保護の問題は實に多々あるが、こゝにはたゞ以上、二三の例をあげた。以て他山の石として學ぶ點もあらうと思ふ。
(未校閱……文責在記者)

○子供の

「先生あの角に花屋があるでせう、そこに赤と黄色と白といろの菊の花が咲いておましたから僕「お庭のかきれの菊の花」の唱歌をうたつてやりましたの、そしたら菊は皆喜んで赤いのは赤い顔をして笑ひ、黄色いのは黄色い顔をして、白いのは白い顔をして笑つて居ました、僕も一緒に笑つてましたよ。」と。

藤の實が熟したので之を拾つて鉢にまかせたのに一人の幼兒そばをはなれず見て居る。暫くしてから「あちらにいつて遊びませう」と誘つたら「僕生えるまでここに居る」と眞面目にいふ。

三の組の幼兒入園當時の事母親から幼稚園の先生は何とおつしやつたかと聞かれし返事に「御手とお膝におみあしを揃へてそばにゆ〜くつよ」

花壇の草取を手傳つて居るとき枝シャクトリが草について枝のやうになつて居るのを見て先生に説明していつて居ると一人の幼兒さも感にうたれたやうに「考のある蟲だなあ」と感心した。

兒童觀の遷變

——某講演會における講話大要——

高島平三郎

昔から子供をどんな風に見たかを話し度いと思ふ。その見方に三つある。

第一は、人生觀に樂天觀、厭世觀、外に自分の努力によつてどうにでもなるといふ改良主義があると同じ様に、子供は始終快感をあたへるものであると見る見方で、子供を育てるのに、母は七十五度泣くと云ふが、それは一面又樂しみである。即ち愛の對照として見る。子寶として可愛らしい美しいものとして見る。又厭世的に見るのは餓鬼と云ひ、三界の首枷といふ。これ等は親子の關係できまり、時代、民族によると確定はされぬ。只日本人は外國人から見ると、日本人程子供を可愛がる國はない。實に子供の天國と云ふが、可愛がる事は可愛がる。概して人間の文化が進むと子供に對する考が正當になつて樂天的になる。一面理智が發達して子供の大切なる事を認め、眞に子供を理解して可愛い、ものを見る。

第二は、子供を人間研究の目的物として見る。こ

れに更に三つある。その一は、子供が生れるとそれをどう取扱ひ養ひ育てるか必然的に起る。子供の育て方の分れたのは、長い間の研究による。即ち初めは子供を意志的、實行的に見る。その中狩獵時代等が過ぎて生活に暇が出来るると親子の情が出来て来る。

その二は、子供の動作がうるはしく見える。詩の對照として子供を見る。これは平和になつた時である。日本は子供の愛をうたつたもので痛切なものである。山上憶良の「しろかねもこがねも玉もなにせんにしく寶世にあらめやも」の如き、子供そのものを美しいと見て歌つたものには、ゲーテ、ロングフェロー等にあり、日本には少なく、犬熊元道と云ふ歌人や信濃の俳人一茶のに子供生活そのまゝをうたひ、子供がよく浮び出てゐる。即ち子供を美の對照として見る。

その三は、科學の對照として見る。これは極めて新しいので、子供の體の研究さへ起りしは近年であ

る。一六七〇年オランダにレーデンホープと云ふ學者があつて、この先生が顯微鏡の發明によりトカゲの男性の生殖細胞を見つけ、子供の體の出来る事を知つたが、その顯微鏡の子供の圖には何も無い筈な所に、目も口も鼻もついて、人格化して居る。一八二八年にドイツの學者が母のトカゲの卵種を發見した。この學者は、胎生學の父と云はれて居る。此頃から段々子供の胎内の發育が分る様になつた。

兒童心理學の發達したのは、一七八六年今から三十七年前にドイツの哲學者で化學者であるヒードマンと云ふ學者が我子について四歳になる迄の發育を細く觀察して、一切心理的に解釋した。これが科學的研究の道を開いた人である。後百年たつて、アメリカで兒童研究をスタンリーホールが開いて、心理學の實驗法殊に發問法を研究に應用して、精神發育の方法を調べた。このホールの研究が英米に影響してゐる。日本でも三十年位前に研究會が出来て追々世間が兒童を認める様になつたがまだ力の入れ方が足りぬ。

第三の見方は兒童が誰に屬するかと云ふ見方、子供は助けなき間が子供である。發育の終る二十五歳以下を兒童期として研究する人もあり、十五歳以下

と主張する人もあつて、子供と云ふ時期についても説が違ふが、子供の時期が長い程高等動物である、アミーバの様なペロ／＼したものは、直に分裂するから、母、娘の區別がない。それより魚、それより犬、猫、猿、人間と云ふ様に子供の時期が段々長くなる。二十五歳は最大限である。その間は兎に角人から助けられねばならぬ。兒童期は保護されねばならぬ。只そこに於て問題が起るが、一般に昔の開けぬ時代、精神の未發達の人は子供を自分の所有と心得個人に屬するものと考へて居る。丁度男子が女子を所有すると心得るのと同様である。己れのものだから己れの自由にするのと云ふ考である。國家となしてもそれを是認して居る時代もあつた。一八二八年進化論者ダーウインが南米を廻つた記事の中にフィラデルフェイロ(火の國の義)と云ふ國にフェーシアと云ふ一番開けぬ野蠻人がある。カノン(獨木舟)を作れぬ野蠻人は殆んどないのに、この種族は辛うじて作り、菜食を知らず、海から貝殻をとつて食べる。兩親は裸かで海へ入つて貝をとつては食べた。鯨をうめておいて食べたりしてゐる有様、ダーウイン一行が望遠鏡で見ると、岩の上に十歳位の子供が、籠見度いな物を持つて、出て來ると、獸の様な人が海に入つては貝をとつて、そのかごの中

に入れて居る。その中子供が手をはなして籠を落したので拾つた貝は皆海の中に入つてしまつた。するど獸の様な男が、子供の兩手を捕へて岩にぶつけて幾度もぶつける中にとうとう死んでしまつた。その中女らしい野蠻人が出て来て、子供の死骸をおどろきもせず、悲しみもしないで、引ずつて家へ歸り、死骸をあぶつて、焼いて食べたと云ふ事がある。又此の人は「婆さん狩」と云ふ事もある。不漁で海に出られず、貝がどれぬと皆が食物に困り、一番初めに婆さん狩をする。お婆さんは三日も不漁がつづく、山へ逃げる。すると皆がつれて来て穴の中におしこめて、いぶし殺して、一族の者が集つて儀式をして食べる。これは極端であるが、この思想が子供に對して今でも残り、支那の上海には籠の中に子供を入れて、札をつけて賣る。けれど自分に屬すると云ふ此の考へ方は、今はアナクロニズム(時代錯誤)である。所屬が誰にあるかと云ふ見方は第二は、子供は家族に屬するものと考へる。これはどこの國にもあつた。これには美風もあつたがこの考も變らねばならぬ。お家騒動の起るのはその爲めである。長男を第一番に大切にする。いらぬ子は間引くといつて殺したり川に流したりする様になる。家と云ふ事中心も時

代錯誤でこの考で今の子供を教育するから誤である。所屬の第三、文化の進める兒童觀は、社會觀で、子供は社會に屬すると考へる。國家も社會の一つと考へる。この考へ方は一つの人道主義で唯美哲學の發達と生活の形式の變化から起つた考へ方である。今日は社會の生活の形式(home of life)が變つて來た夫唱婦隨と云ふ呑氣な道德ではゆけなくなつた。夫婦共稼ぎで、そこに婦人問題、兒童教育も起る、アメリカあたりでは赤兒のそばにパンとコーヒーを與へて、兩親が出かけ、學校から歸る子供は、家へかへつても誰も居ないから、途中ぐづぐづして何か盗んで食べたりする様になり、不良少年が多くなる。そこでやむを得ず、社會全體として、子供遊園、託兒場が出来る。又は時間をきめ往來をこめて巡查が周圍をまもり、指導者が來て子供を勝手に遊ばせる今日では父母が少くとも勝手に育てゝいゝと云ふ事なく國家社會の爲を考へて育てねばならぬ。子供をうるはしい可愛いゝものと云ふ事をうはつらでなくほんとうに見て、叩いたり罵つたりする代りに、泣く原因、怒る原因を考へてそれを取り去つて訓誡をあたへて眞の意味で可愛がらねばならぬ。

(未校閱……文責記者)

幼稚園教育と児童保護事業

内務省囑託 小澤 一

○児童保護事業と教育的方面

の考察

此頃、児童教育に關係ある有識者が、幼兒保育のことに、次第に注目するようになり、直接幼稚園教育に携はる人は勿論、その他の方面の教育家が、社會事業に關係ある方面と協力して、下層社會の幼兒の保育といふことについて、漸次、問題を喚起する方に進んで來た。そして、これに關する諸種の運動施設が計畫されつゝあることは誠に喜ぶべき事である。

これまで、下層社會の幼兒の保護教養といふ問題は、社會事業の立場からのみ考へられておつたものが、今や、各方面の教育家の奮起を見るに至つたといふことを特に喜ばしく思ふ所以は、私自身が從來の經驗上、ことに我が國の児童保護事業の上に、教育的な方面が甚だ幼稚であり、しかも社會事業の一

面は、どうしても教育的な見地よりして考究せねばならぬものであることを、痛切に感じて居るからである。

元來、社會事業としての兒童の養護、教育といふことは、多くは、孤兒や貧兒を一施設内に收容して教育し、或は、貧家の幼兒を晝間保育所に入れて、その母親が勞働が充分出来るようにするとか、或はあのくらい生活状態から、せめて晝間だけでも救ひ出して、秩序のある、あかるい保育所の中で養育しようといふことにあるので、社會的施設としては、かゝる子供等を貧しい母親にかはつて、晝の間保育するといふことが主で、兒童の生活なり、兒童の發育に關して、もつと重要な、教育的方面の考察が、遺憾ながらこれら社會事業の上に、甚だ乏しきことを思ふ、それ故に、いふ迄もなく、これら孤兒貧兒の保護教養は、社會一般の進歩、及び各方面の有識者の協力にまたねばならぬのであるが、未だ幼稚な

我が兒童保護事業に於て、從來、直接この事業に從事せぬ他方面の有識者の同情理解と、直接關係の援助といふことがどうも充分でなかつたやうに思ふ。

私は、永い間、東京のかゝる種類の子供を教養する場所に働いてゐたが、市内の育兒院とか、保育所とかいふ場所に、この種の子供を見舞ひ、參觀に来る人が割合に少いことを思ふ。ことに兒童教育に直接關係してゐる人が、かゝる場所を、もつと繁々見舞つてほしいといふことを痛切に感じたのである。

○子供ながらに同情の心を

ここに、我々自身の子供が又世間一般の、所謂幸福なる子供等が、かゝる氣の毒な子供等に對する時その幼なきながらに相當の道德、宗教、思想上の芽を培つて、將來、他人に對して同情し理解することが出来るようにありたい。かゝることは、やはり、幼兒が無意識の間に、世の憐れなるものに對して感ずること、社會の差別、そのさま／＼の事相について、しらす／＼の中に考へをむけるようにすることが大切である。ある夜自分は子供をつれて、縁日のそばを通つたことがある。その時に、とある横町に

迷兒になつて幼兒があつた、大分人ばかりがしてゐた。よく調べて見ると、その子は捨兒であつた、そうともしたらぬ、可愛そうなその子は、しきりに自分をつれて來たものを、探しもどめてゐる。この有様をぢつと見てゐた私の子供は、無意識のうちに、この幼ない子が、薄暗い裏町で、父か母かに置き去られたことをしり、その子に對する思ひ遣りがをこつた。その中に、その子が巡查につれられて行くのを見て、私の子供は、心配そうな顔をして、尋ねた。

この時、自分はしづかに、「あの可愛そうな子は、お父さまが、毎日通つてゐる院につれて行かれる、そこでいろ／＼お世話になるのですよ」といひきかせると、子供は、父親の働いて居る事業の意味が初めてわかつたさうにも、その可愛そうな子供に對する同情と心配とが、この時、初めて解決したように見えた。

これは、ほんの一例に過ぎないのであるが、實際彼等幼兒が、世間の可愛そうな人、あはれむべき事について、子供ながらの悲しみや心配をもつ事は、私自身の經驗から考へて、なか／＼多いと思ふ。ここに、かゝる點で都會生活をしてゐる子供は、接す

る人々の範圍がひろいために、したがつて、世の同情すべきもの、いたまじきものが如何なる風に生活してゐるか、いつとはなしに彼等幼なきものゝ心にうつつて、したがつて、これについての疑問もおこる。この心を如何に導くべきかについては、教育者が充分に考慮したい。この意味で、幼稚園、小學校、進んでは中等教育をうけるようになって、直接にかゝる慈善事業を見させるようになって、これに對する同情理解を得させることが必要であると思ふ。

○教育と保護との堅い握手

こゝに於て、兒童教育に携はるものと、兒童保護事業に従事するものとは、是非とも社會的に握手協力するものでありたい。兒童保護事業はどうしても教育的な基礎の上にたつて研究され、經營されて行くものでなければならぬ。このためには、教育者自ら兒童保護事業に注意を拂つて、直接間接の援助をするようになって頂きたい。そうすれば必ず、兒童保護の上にな益するところ多きを疑はないのである。

兒童保護事業は、近頃漸次に進歩して、その範圍

もひろくなつて行くことであるが、貧兒に對する晝間保護事業は幼兒期の保護をなすといふ上からしてまた、一面に於ては、また貧しきながらに、家もあり親もある子供等を、その貧しき家庭もろともに保護して、少しでも明るい環境をつくつてやると云ふことだから云つても重要な位置をしめて居るのである。

かゝる保育事業にむかつて、普通の幼稚園事業に携はる人が次第に注意をはらふといふことは、たゞに救濟的の意味における晝間保育事業に裨益あるばかりでなく、また慥かに、普通幼兒の保育についても、必ずためになることであらうと思ふ。

○人しれぬ苦勞がある

平素薄暗い世界に生ひたつて、幼時から身體の發育も心の状態も、餘程普通兒より遅れ、境遇のみぢめなためにさまざまの影響をうけてゐる貧兒の保育に従事してゐると、どうしても、折々は、あの快活な元氣に充ちた、幸福な子供等の幼稚園を見舞つて明るい、暖かい心持ちに充ちた幼兒に觸れたいといふ事を切に望むのである。これによつて、貧しい境遇にある子供等を少しでも、幸福な境遇に生れたも

○熱心と人格、その上に學識

を

の、發育状態に近づけ、導いて行きたいと思ふのである。しかし現下の我國のこの種の保育事業は、設備も誠に不完全であり、保母なり教師なりの地位がまだ、氣の毒な状態にある。下層社會の幼兒を眞に將來の幸福な境地に導かんがためには、第一に、保育者その人に適任者を得なければならぬことは、いふ迄もなく、設備といふ點もこの事業の進歩とともに益々必要なことが多くなる。ことに考へねばならぬことは、かゝる保育事業に従事する保母は、普通の幼稚園の保母と比べて、實に人しれぬ苦勞の多いことである。大抵、どこの保育所でも、母親が勞働に出るまへに子供を頼みに來るから、もう朝の七時前後から初まる。そしてながき一日を、何くれとなく世話をなし相手になつて、夕方はといへば、五時もしくはそれ以上遅くまでも、子供は保育所に居る。しかも、その設備は不充分であるから、保母は終日を、氣の毒な子供のために骨折ることのみ多くして、あかるい、愉快な心持で、はれ／＼しい氣分で毎日をすごすといふことは餘程困難である。その心身の疲勞といふことは、到底、經驗なきもの、想像の及びがたいところである。

そこで、要するに、普通の幼稚園教育に従事する人々が、この種の保育に向つて、更に一層の注意を拂ふ様になつてほしいのである。幼兒の保育に對して、熱心な、人格のそなはつた、しかも、この方面の教育に充分の知識をそなへ研鑽をつんだ保母が、よし、一つの保育所に一人づゝでもよいから力をそそぐようでありたい。かくて、我が國の兒童保護事業が、一層しつかりした基礎をもつて、實際的にも學究的にも進んで行くようにと、私は希望してやまない次第である。

(未校閱……文責記者)

○眼醫者

千代子「私れ昨日お耳が悪くて眼醫者へ行つたの」
てる子「あら眼醫者？」

千代子「耳の眼醫者へ行つたのよ」

託兒所の實際

櫻楓會託兒所主任 丸山千代

幼兒晝間保育の事業は、近來非常に盛になつて東京府下に於ては、工場附設を合すれば三十餘ヶ所である。全國の社會事業家は元より大工場主又は鑛山主等此の事業に心傾けらるゝ事著しくなつて來た。一つは營利事業上より一つの方便として、一つは眞に、社會改良上から、又は人道上から、今後益々盛になる事と思はれる。動機は何れにあるにせよ、取り扱ふものは兒童である所からして、最も適當なる境遇を彼等に與へ、信頼を擔ひ得る保姆が従事せねばならぬ。然るに實際は營利事業家は其立場より金に任せ、て外形のみ形造り、以つて足れりとなり易く、一つは其必要さへ補へばよしとして、堂々たる工場の一隅に、最も粗末なる建物と、暗愚なる老婆の閑つぶしに任せおくものと、一方社會改良又は兒童中心から起つた事業は、元來安定の資なきが多く、従つて一般の同情を訴へるのであるからして、事業經營難に經營者は少からず頭をなやまされる。大正七年後

の今日、經費の膨脹殊に甚しいので、事業上の支障は元より、従業者は自分の生活は低きに安ずれど、其家族の心配と、子弟の將來の教育さへ覺束なきなやみを如何とする事は出来ない數年前は唯美しき精神的情緒のもとに、給料など、元より眼中になく而も一人半前も二人前も、朝から夜迄黙々として従事して來たものも、やはりその使命を全ふするには、研究も必要休養も相當にし、而して精神的食餌もとらねばならぬ。保育所は勞働者相手故休みも少く且つ朝も早く夜までの仕事になる。「仕事即遊戯」「仕事の轉換即ち休養」等此の態度元よりあるべき事なれど、そのみにては解決つけ難きこと多く、そこにはいろ／＼の煩悶が起つて來る。又朝夕せめて、老父母の用も達し、衣類の手入れも等幾分家族生活を中心におく時は、何かと兩立せぬ苦しみを見出すのである。是等の自分の生活と、研究と仕事と此の三つの調和を計るには、自然人を増さねばならぬ。けれ

ども經營者は經營難と保母を幾らか人格視せぬ常習から無理を強ひ、保母達も信仰生活、又は精神的生活の立場に身をよせて、黙して居る。此の問題を之からの保育所經營者は如何取り扱ふべきだらうか。故に餘計に保育所には人を得難くなる。

保育所の使命は實に大なりであつて、家庭と幼稚園の中間に位し兩方の性質を兼ねて居らねばならぬ。一度保育所に従事すれば其使命の大なる事と盡きざる興味とに凡てを捧げて惜しまざるに至るのである。斯く云へば何の要求も起らぬが當然の様なれど、使命をよりよく果すには其爲めの要求が起るのは當然である。保育所をして、保育所の使命を果すには、何としても上述の問題を解決せねばならぬ。之は單に従事者の自ら開拓せねばならぬとは云ふものゝ、社會の輿論によつて、一層適切に解決せられねばならぬ。

此頃歸朝されし船尾榮太郎氏の御話に「戦後の歐米の社會事業に問題になつて居るのは、經營難と従事者の經濟上の煩悶とである」といはれた事から見れば、此點は今は何處の國も共通である。

それから此度催さるゝ子供デーを迎ふるに當り、

眞に訴へ度いのは乳兒問題である。電車にのる時ふと側に見すばらしき人を見出した時、又道行く内に赤子負ふ貧しげの父親や、右手に内職の包みを、左手に幼な兒の手を引いて、往く母親に、乳を乞ふ赤子の泣き聲を聞いた時、其人々の家、生活、事情を考へられる方々が幾人あるだらうか。實に同情に耐えぬ事が多い。その一二の例を上げれば妻の病氣に四疊半一間の僅かの道具も、大方は賣り盡した頃其妻は死亡した後には、九歳の子を頭に四人の子が残つた、父は日雇で一日休めば一日饑えねばならぬ、幸幼兒達は托兒所に依頼するとしても、一歳の乳兒の所置に窮する。病兒ならば夫々慈善病院に一時なりとも收容される便はある。然し健兒なれば全く行き所がない、里料十數圓に衣類も相當にせねば里親の機嫌が悪い迎も耐え得る處でない。乳兒まで引き取らるゝ福田會孤兒院も里親見當らぬ内は入れられぬのである。養育院は父ありと云ふので受けられず、同情園も目下の設備にてはいつとも満員、婦人共立育兒會も十人の定員にて中々缺員なく子守雇ふにも牛乳代から給料などは日雇の薄給にて數人の子の養育さへ覺束なきところ故迎も其餘裕はない。夫失ひし

寡婦の場合も之と同じ事にて唯母乳はあれど内職位にては一家支へられやうもない。斯く書き立てれば一朝一夕擧げ盡せぬが何とも解決つかぬ事のみ多い而して辛じて男親の育て上げし子は、多くは慢性の胃腸病にかゝり居り、性質も扱ひにくくなつて居るのが多い。之は托兒所に於てよく經驗する所である私共は完備せる乳兒保育所の設置を希望する。安價に牛乳を得らるゝ様希望する。無智なる男親に夜間其許に渡す事無くして行き届ける世話をする晝夜どもの孤兒院ならぬ設備をも附設し度い。寡婦の方には安心して母乳を與へたい。育て上げらるゝ爲めに國家が其生活費の幾分の補助あるべきを希望する。ある公の機關に此の事なきにしもあらずされど申請を紹介しても多くは許可されない様である。私共其設備の出來ぬは經費の問題の爲めである既設した事業の繼續さへ危いから一層一般の有志者に力を借らねばならぬ。下層社會の寡暮しのもの等は直ぐ又結婚するならんど多くは考へらるゝ様なれども托兒所に入入りする人々の中に、感心に耐えぬ人は中々多い彼等は何も言ずして道をふんで居る。私共は徒に何もかも直ぐ様救濟的にと云ふのでは無い。願はく

は成るべく彼等自らの道に出づる様にと或は郷里の事情親類の關係を詳細に問はねばならぬ、彼等の眞偽も觀察せねばならぬ、されど親に罪ありとして兒童を捨ておくわけには行かぬ。斯くして親類知己關係の中間の勞によりて解決さるゝは數少く、少しでも兒童に關係ある機關の間をグル／＼廻り居る内には事件をます／＼暗黒に運び去つてしまふ。

幼兒死亡率のいやが上に高まり行くを、學者や爲政者の唯机上の材料としての時のみ一顧するのでなく實際の施設を望む次第である。斯く兒童問題を中心にした社會問題が數々あつて、托兒所は母の會出身者の指導、附近のコードモ會近所の大人の爲めに又娘の爲めにとそれ／＼關係すべき事業多々あり。現在の各保育所は何れも夫れに努力しつゝあれど、前述の如き事情にて重き使命に耐えぬ次第である。是非何れの階級、何れの職にあるを問はず、其立場／＼に於て、協同一致幾分なりとも共同奉仕の精神によるならば、必ずや人も吾も各責任を果し得て幸福を自得するわけであると思ふ。

我子に試みつゝある一二

○子供ご服装

只今私共には四歳五歳十歳の男兒と八歳の女兒と居ります、長男、長女は、小學校に次男は幼稚園に通つて居りますが、四人とも平常は、夏冬共に洋服をきせて居ります。皆様も御承知の如く活動の烈しい、子供に對しては、裾と袂の短かい洋服はよほど好ましいと見えまして、今日では寝衣の外は、男兒には和服の必要が、なくなりまして、夏はゆるやかな、浴衣などは餘り苦にもなりません、冬期は、綿入の重著に、綿入羽織を、ごろごろ著せますより、は輕くて暖い毛絲の下著や、スエツターで、身輕にさせて置きます方が、子供の本性にかなつた仕方だらうと考へて居ります。然しまだまだ、長い間の習慣と日本の住居とが、子供服の改良の妨げとなつて居りますが、幼稚園時代の子供などは坐つてながい間遊んで居ることなどはほとんどないものでござい

醫學博士夫人 檜 田 千 惠 子

ますから動作に自由な洋服の方がどうしても、合理的と存じます。私は洋服の缺點をあげて反對する人やその缺點をきいて不安におもつて用ひられない方にかうすれば其不安がのぞかれるといふ事を二三かいて皆様の御參考に致したいと思ひます。

先日横濱の某外國人の家庭を訪問致して、御子様
の衣類をいろいろと拜見致しました處下著から上著
マント夏冬一切のものを二歳の坊ちやんと五歳のお
嬢さんとお二人分ございましたが、其數の少ないの
には、實におどろきました。日本では子供でも春夏
秋冬によりまして、ふだんぎと外出著の二通に、分
けて、するぶんな數の衣類となりますのに、幼兒は
ことに、木綿物の單衣でとほすので、寒暖の調節は
下著と外套で、はかるからと申され、木綿の上著は
一週に一度づゝ洗濯するといふお話。小學校へ行く
頃から毛織物の服は著せるが、幼時には大方木綿を
用ふるとのお話で、これなぞよい私等の參考だと、

感心致しました、袷も綿入もなく單衣^①。一切なので數も入らぬ次第、洗濯も自由で手輕だといふこと、唯色の配合ですべての調和をとることを申添られました、洋服は、高價なりと、いふことは、これで裏切られるだらうと存じます。上流の子供の服だといふ様な感想は破られます。各自の子供の身に、よく似合ふ形を、とつて用布も、配色を考へて、家庭で仕立れば、殊に簡便で、一個のアイロンとマルセル石鹼でも供へて置きましたら、洗濯して板張をして一仕立直の手續をかけることもなく、常に清潔にして衛生上も外見もよいこと、おもひます。

膝から下が、寒からうといふのには、在來の脚部まである股引を用ひて、膝の上までの靴下を用ひさせるか或は長い靴下を、二枚はかせるか、脚部にゲートルを用ひさせれば、其不安はのぞかれます。家にあるときは、カパーを用ひさせます。これはフレンチル、ラシヤなどの小切で作れば、足の先が暖かで靴下の切れるのをよほど防ぎます。

先日、某小兒科の博士のお話に、日本の子供は、冬は綿入の數は、ずるぶん重ねさせて居るが、其割合に手足は餘りかまはないが、からだに重ねる綿入

の數を減じて手足を、おほふ様にする方が、理想的だと申されましたが、袖やすそのしつくりと、身につく洋服は手足を冷さぬ様に、さへして置けば、よほど暖かいこと、おもはれます。餘り身體全部をすきなくおほふのは抵抗力を弱くすると云はれる方があるかも存じませんが、幼兒などは、一般に寒い時は、おかされ易いものでございますから、全部を暖かにして居てやれば(勿論活動に妨げとならぬ程度)寒い風の吹く時でも喜んで飛びまわれること、考へて三人の通學する子供には、冬期は前述の様に致して居ります。朝風の寒い此頃は外套もきせ、マスクを用ひさせて居ります。

洋服について、よいことは、女兒にはことに下著が理想的で、誠によいこと、存じます。下著については昨今各専門家が、いろいろ研究されて居ります。が、まだまだ研究の、餘地が充分にあると存じます。用布も、木綿メリヤスが、日本で製作されるやうになれば、きつと理想的なものが出来るだらうと存じます。が、上著はだれしも、氣がつかますが、下著は目につかぬもので居て、一番むづかしいと存じます。日本の習慣を破るのは、幼時からよい習慣をつけて

「下ばき」を一生用ふる様に是非致したいものと、女兒のおありの御家庭や、保姆の方々にも一考をわづらはしいたいと存じて居ります。

女兒に「下ばき」を用ひさせると同時に、各家庭でもお母様方は勿論女中たちにもまでボタンのかげはづしをよくなれさせて「おつくうにすること」をやめたら不衛生不體裁な女子の下著の改良は、早晚行はれる事と存じます。私共では寢衣の下にも「下ばき」は子供のこらずに用ひさせて居ります。

○子供の夕飯の改良

毎年夏休に海岸へ子供をつれて参りますが、去年の夏大磯に居りました時、朝食はパンに致して、牛乳にココアや、紅茶を交せて用ひさせ、パンにはバターやジャムをそえて、ジャガ薯やおさつをふかして、一所にいたいかせました處、三度をもパンがよいといふ子供もある位でございましたが、晝食には、温い御飯に新しい魚を興へ、夜は五時から五時半の間に軽い肉や玉子とか、野菜をませて、消化のよい様な食事を興へて居りました。

長男が胃腸が弱いので困つて居りましたが、五拾

日の間無事元氣で、體重も増して歸京いたしましたので、折角よい工合にさせた胃腸の習慣をどうかして其まゝに致したいと存じて居りましたが、其前に知人が英國に長い間居られたので、其話に英國の子供は、三時のお茶には、かなり澤山に、お腹にたまる様なものを、食べさせますが、夕食には、食べさせなかつたり、また人によるとビスケットにお茶位ですませるさうです。十五位までは皆さうだといふお話をきいて居りましたので、それを參考にして學校が始まりましてから、朝食は温かいお飯をいただかせ、晝食はお辨當や、また歸つてお飯に致し居りますが、三時のお茶には餘り充分にいただかせないで、五時には夕飯にパンと乳、それに野菜と軽い肉、玉子、魚（これは洋食にして）をとりませて、そえて居ります。一般に何處のお宅でもお夕飯は手のかゝる料理が數々出來ますから、子供もつい充分に食べすぎやすいので、夜分牀に入つてから夢を見たり、いろいろの故障を、起しやすいと考へまして右の様に時間を正確に致して、消化しやすいものを食させまして、一時間半たつて、七時に就牀させる様に致しました處、至極夜の眠も、安らかになり、

朝は一そう元氣になつて、參りました。とにかく、睡眠前には胃の負擔が軽くなつて居る方が、よほど効果のあることゝ存じて、當節はお誕生日のお客様などもなるべくお晝食に致して夕飯にはこの軽い食事のさまたげを、致さぬ様に致して居ります。半年程になります、子供たちもこの習慣で夕飯には、よそで、たまにいたゞく様なことがあつても、餘り澤山にはいたゞきません様になりました。

前述のことは四人の子女に對して、體育増進といふことについてよいと考へて試みて居ることで決して理想的の模範といふことではございせんが、何か皆様の御參考にもなりませばと、一筆書つゝりました、私も出来るだけは子供の同情者となつて世間の苦勞知らぬ、楽しい幼年小年の時代にある子供等を満足させて、やりたいものとそればかり考へて居ります。

○ 日にやける程が丈夫にのびるなり。

竹の子を真似て人の子弱くなり。

風の子は雪をも吹いて飛ばすなり。

(小 波)

○婦人の家庭的奉仕と社會事業

……女權論者に依りて輕侮せられしこと、未だ嘗て婦人の家庭内奉仕の如きなし、彼等は婦人が獻身的犧牲を以て家庭の創造に従事するを價値なきものなりと傲し、こは奴隸的境遇なりと主張しつゝあり。されど家庭に於ける婦人は幼兒の靈魂の教育者にして單に種族の母たるのみならず、更に將來の人類をして永遠に向上せしむるの任務に服しつゝある者なり。……尙無産階級に於て多岐の職業的婦人の存在することを忘るべからず。彼等にありては職業は最早好惡の問題にあらずして必要の問題なり。彼等の或者は家庭の破産を悲しみつゝも尙衣食の爲に勞働を敢てせざるを得ざるなり。斯る不自然なる結果は、我國に於て年々約百八十万の生産中、死産兒約十四萬人、死亡乳兒三十萬の多きに達しつゝあり。故に各國に於ては近來母性保護の急務を感じ、英國に於ては千九百十八年に於て妊婦及嬰兒保護法を制定し、米國に於ても今年之を制定し、其他託兒所、兒童保護協會等を設けて彼等を救はんとしつゝあれども、單に是等の外的施設に依りて健全なる家庭を創造する事能はざるや勿論なり。故に千九百十一年に於て米國イリノエス州は母子扶助法を制定せり。是れ世帯主の疾病、死亡等に依りて其子女を養育し能はざる場合、州は之に對して一定の金額を支給し、以て母をして家庭内に於て子女を養育せしめんとするものにて、該法に於ては母の勞働に従事する事を嚴禁せり。而して同法は今や四十餘州に實施せられ、紐育市の如きは同法に依りて支給を受ける者一年約四千戸、其金額二百萬圓に達すると云ふ。是れ國家の基礎は健全なる家庭に存するを以て、子女の教育は母をして之に當らしめんとするものなり。されど吾人は家庭的生活を以て婦人の全生活なりとする者にあらず。……即ち吾人は此點に於て婦人は其家庭的奉仕を害せざるの範圍に於て社會的事業に従ふことを以て正當なりと信する者なり。(東京朝日より)

童話の撰擇とその心理的基礎

文部省囑託 青木誠四郎

幼兒の教育には、童話はかなり重大な意味をもつてゐる。幼兒のもつ世界は、想像の作る世界であつて、目に見ゆるもの、觸れるものが、すべて彼等の興味にふれて、想像をつくりあげる。幼兒がきく童話に於ても、この間の心理が行はれて、愉快おく能はざるものがある。最も幼兒等の生活に則したものであるのであるから、この間に幼兒の感情を醇化するようにしてゆくことは、幼いものゝやがて築くべき人格の上に、美しい果實を結ぶために甚だ大切なことである。

さてかくの如く童話が幼兒の感情生活に重大な關係があるとするれば、われわれは、その話し聞かせる童話についても、教育的の見地を忘れてはならないが、一方に於て幼兒の心理的事實を知らなくてはならない。この心理的事實に基づいて、いかにすれば幼兒の生長の途次にあたつて、その本來の感情を醇化することができるかを考へなくてはならない。こ

れがためには幼兒にきかせる話の選擇には、まづ第一に幼兒の心理を知つて、その上にこれをどんな風に導いていつてよいかについて、一定の考へをしてゆかなくてはならないのである。もし幼兒の童話をきく心持について理解なくして、童話をしてもそのまたは、たとへ教育的見地にたつて話をしてもその心理についての理解がなければ、幼兒達は、きく話に興味索然たるか、または反つて負擔を増して感情教育の上に、何等の効果をもたらさぬ、こゝに於て私は、幼兒のもつ想像の性質、更には、これに加はつてゆく興味についていさゝか研究の一端を述べてみようと思ふ。

今その主な氣の付く點を一つ、二つ述べてみると幼兒のきく話は、どこまでも幼兒それ自身を中心にしてゐなくてはならない。幼兒を客觀としてとりあつかふことは、幼兒の想像の性質を無視したものであつて、結局失敗した御話になつてしまはなくて

はならない。すなはち、「ごらんなさい子供達が大よ
ろこびですよ」とか、「ブランコは子供のよろこぶも
のです」と云ふやうな取扱が即ちこれである。よろ
しくこれは「ごらんなさい太郎さんも次郎さんも大
よろこびですよ」と云ひ、「ブランコはほんどうに何
て面白いでせうチー」と云ふべきである。こんな、デ
リケートなことは何のことに値しないと思ふ方が
あるかもしれないが、これはやがて童話そのもの、
全體の取扱にかう云ふ間違つた、幼児の心理からは
なれた方法をとることを意味するものであつて、注
意すべきことの一つたることを失はぬ。

も一つ、幼児が描く童話の世界に、悲劇はない、
どこまでも樂天的であり、善因善果であり、計畫は
遂行される。悲劇的な結末をもつもの、善い事の結
果に悲しむべき破綻の來ること、計畫したことが途
中で破れて悲劇に終ること、などは幼児の世界に於
て必ず矛盾を來すものである。悲劇的結末に對する
興味や想像の働くのはずつと後年のことである。た
とへば、この世の中に行はれてゐる社會の實相につ
いて語つて、善人必ずしも榮えずと云ふやうなこと
や、よくある、虚言で人をだましてゆく話にその虚

言が見破られてどうどう殺されたと云ふやうなのは
この間の話の破綻である。試みに、桃太郎の話に終
りに桃太郎が戦に敗けてうち死したとして話をきつ
たら如何であらうか、思ひなかばに過ぎるものがあ
らうと思ふ。

この他、幼児が話のすぢよりも、その部分部分の
話に興味をもつこと、なども注意すべき事である。
即ち、幼児の想像は斷片的、かつ聯想的であるから
必ずしも首尾一貫するを要せぬこともある。この場
合幼児は、その部分部分の話に自分の想像と興味の
満足を感じてゆくのである。

この他種々の心理的事實が幼児にきかせる話につ
いての指針を與へてゐる。是等の事實については實
際の觀察——きくときの幼児の態度、よろこびの状
況等——をして、その上にたつてこれを導くために御
話を選択してゆくことは幼児の教育の上に怠つてな
らないことの一つで、日常幼児に接する人達に特に
のぞんでやまないところである。(一九二〇、二二、二三)

此頃思ふ事を

○

内務省囑託 甘粕 なべ子 (談)

これ迄、我國では、大人の頭から考へ出した事で子供をたゞ満足させれば、それで親も、世間も満足して、いかにも子供のためになつたと思つて居つたやうですが、近頃は、餘程この點に自覺して來たやうです。大人の頭から考へ出した事が果して子供を満足させるか否か、先づ子供を育てるには、自ら子供の様になるといふことが一番大切なことではありますまいか。私が最近關西に參りました時に、低能兒を教育する人にあひました。その人のいはれるのに「低能兒を教育するには、先づ自ら低能兒とならなければならぬ」と。これは意味深い言葉であると思ひました。

昔から、子供は一國の資本といはれてゐる位でありまして、その教育の如何で、どうにでもなつてゆくものであります。その教育は廣い意味では社會ですが、これを最も直接に行つてゐるのは、何といつても婦人であります。そして、その教育といふこと

と同時に、やはり幼兒期は、養護といふことが大切であると思ひます。多くの家庭が、その日常の衣食住にも少し幼兒のたつてほしいと希はざるを得ないのは、いざ病氣になると、母親は不眠不食で心配しますが、平生の保健といふことに、どうも注意がたりなくはないかと思ひます。これについて、申上れば限りなく問題はひろがつて參りますが、その一つとして私の日頃感じて居る事を申上りますならば、母親が、子供のお守をしながら自分の仕事をやるようにしたいといふことで、これは一寸無理なやうですけれども、少し心を用ふれば、子供のためになつて、しかも仕事は出来るものです。私が米國にをりました頃の事を思ひ出して今でも氣持ちのよいしかも羨しいほどに思つたのは、母親が子供をなるべく戸外の空氣にふれさせよう、しかし危険のないようにと思つて、よく、あちらでは、まだ小さい子を乳母車にのせて連れだし日向ぼっこをしながら母

親はかたはらに編物をしたり、本をよんだり、時々子供をかまつてゐるといふことです。生活状態も違ひますから一概にたゞ、かれこれ申上られませんがお母さんがもう少し時間を上手につかひ、また、子供の養育といふことに、徹底した考へをもたれるようになれば、今よりも以上に子供の家庭生活は改善されるものではなからうかと思ひます。そして、私の考へとして、事情の許すかぎり小さい頃から美的な思想をしらずしらず養ふやうにしたいと思ひます。いつとなしにこの心が養はれてゐれば、將來何かの誘惑にあつても、はつきりと、その善悪美醜



私は、子供の保健衛生といふことを、も少し、世の母親が考へて頂きたいと、いつも思つて居ります。ごく手近い例で申しますなら、子供を戸外へつれ出すといふ場合にも、今迄室内に居つた時とは、溫度その他が大分違ふのですのに、それを不用意につれ出したり、夜のつめたい空氣にながくあてたりする一寸したことで、子供の健康をそこなふことがよくあります。そして、どうも、各家庭に醫學的思想

がわかることになりませう。出来れば、音楽も小さい時から趣味として養ひたいものです。これは何も大仕掛にしなくても蓄音機の板のよいのを惹らんで時々きかせる。子供はその曲の意味はわからなくてもよろしいので、美しい音として頭に残つてゐるだけでよいのです。成るべく不必要な、いやな事柄が幼ない頃の頭の中へのこらぬ様にすれば、やがてその力を用ふる時にも、無駄な努力をしないで、もつておる力を、よい方面に用ひて行くことになるかと思ひますし、私共の心持としては、さうしたいものであると希ふのです。

内務省囑託

林 ふうく子(談)

衛生に關する根本になる知識がまだく缺けてゐると思ひます。随分、子供のためには、何くれとなく心配して、玩具はどう、繪本はどう、躰方はどうと苦心なさる母親でも、いざ病氣となると、たゞあはて、すぐに看護婦まかせにするといふことをよくみます。勿論、醫者や看護婦を信頼して、これにおまかせになるのは結構ですが、しかし、病氣は看護が第一で、ことに、幼ないほど母の手にこしたこと

はないのです。醫學的に少しでも大體のことがわかつてゐれば、そして平常から子供の保健について、

充分に根本的に考へて注意してゐれば、突然、愛兒が發病したといつてびつくりするようなことはなく未然にふせげる場合が多いと思ひます。専門的のことは醫者にまかせるとしても、婦人として、一通りの、通俗的なことでよろしいのですから醫學に關する心得があつてほしいと思ひます、これは婦人が主婦となるまへに、母となるまへに、その教育をうけてゐる時機の中に、何處かで養はれるようにありたい。乳兒幼兒の死亡でも、親の不注意、不衛生などから來ることが、どれ位あるかわかりません、姑息の愛のために、子供に衛生上面白からぬ習慣をつけて、その子供の健康を害つたり、榮養をさらせるつもりで、充分な知識がないために、かへつて子供の發育をさまたげるような方法をとつたりすることが随分あらうと思ひます。このごろは婦人運動も大分盛んになつて、參政權を得やうとする方面まで來たようですが、それよりも、先づ、婦人自身が自分の身體についての知識を、もつと充分に得てゐることが、婦人のために、また幼兒のために幸福であらう

と私は考へてゐます。

○獨逸の子供等牛乳に饑ゆ

獨逸は這般の平和條約によつて十四萬頭の乳牛を提供しなければならぬ事となつた、又最近の情報によれば佛國はその條約以外更に八十一萬頭の乳牛を要求したと云ふ斯の如き事情の下に子供に必要な乳を得る事が不可能となつた、現に南獨逸の小都會では日々百リートルの牛乳が必要なのに半分又は二十五リートルしかない場合が多い、元來乳牛は獨逸では戦前でも非常に少なく牛の食物も不足で乳の出方が少ない加ふるに砂糖の缺乏甚だしく目下は戦前より百何十倍の浪費で子供に必要な乳と砂糖とが缺乏して居るで現在獨逸では子供を充分に養育する事が出來ず子供の體質漸次退化し尙ほ人口は次第に減少の徴を示して居る、されば英米其他各種團體では日本の各慈善團體とも交渉し救濟策に就て研究中である、右に就き駐日獨逸大使ゾルフ氏夫人は語る「私が日本へ來て感動した事は子供の待遇の、事です物資上の満足及び學校教育が如何に完備してゐても兩親が子供を善く待遇しなければ性質が悪くなります、人格教育が教育中の中心であるとは獨逸の哲學的教育學者の新意見でオイケン氏等し此の考へを主張して居ります子供は待遇は子供自身に取つて大切な事であるのみならず其國民の運命に取つて重大な意味があります日本國民が子供の好待遇を實行して居る事は歐洲人の深く驚く事でありませう此の日本の親達も獨逸の饑饉に瀕して居る哀れな子供に同情を寄せて下さる事は信じて疑はない所でありませう、子供が牛乳に饑へるのは戦争の影響を子供に負はせる反人道的事實ですこの慘狀を救濟する爲めに獨逸には種々なる機關が出來てゐます前獨逸皇后が主催された「幼兒死亡救濟會」の會長小兒科醫ラングスマイン氏などは盛んに活動して居られます。(東京日々新聞より)

凧 あ げ

○

東京女高師附屬幼稚園保母

池 田 こ よ

「先生おはやうございます」

「入らつしやい、おはやうございます」

厚い外套にくるまつた、いゝ顔色をしたおかつばさんが、茶色の手袋をはめた小さい手に、お辨當を提げて、幼稚園のお部屋へ這入つて來ました。何と云ふ爽やかな、生々した氣持でせう。

「先生、それどうなさるの？」

「これですか、これはねえ、皆さんに凧を作つて上げませうと思つて」

「私たち、みんなに作つて下さるの？」

「えゝ、皆さんに拵つて上げますよ」

「いつ拵つて下さるの？」

「あさつてね、それ迄に乾くやうに繪だけ畫いて置ませう」

「それ、お日様でせう」

「えゝ、そうですよ」

先生は赤と青の繪具を澤山にといて、刷毛で「日の

出の海」を一生懸命に畫いてゐます。おかつばさんは傍で見えてゐます。あとからあとから續々と、他の子供が來ます。同じ問答が幾度も繰り返されて、兎に角、凧を作つて頂くのだと云ふ樂みを懐きながら皆庭に出て遊びました。先生は、三十枚ほど繪を畫いて、机の上に並べて、乾かせました。

子供は、あさつてを待ちかね顔に、行きかへりに並べてある凧の繪を見ました。

愈々其あさつてになりました。朝、子供は、面白い凧のお話を聞きました。自分も廣い／＼野原で、一生懸命に凧を揚げてゐる様な氣がした時、お話は終りました。そのあとが、いよ／＼、ほんものゝ凧であります。

凧を作る材料は、すつかり子供の前に並べられました。例の「日の出の海」と、籤ひしと、糸と、尾に用ゆる赤と緑の細い色紙と、絲卷ひしに用ゐる小さいボール紙と。

先生は凧屋さんになりました。忙はしくて、口を

きく所ちやありません。無言の行で、せつせ〜と
風を作り始めました。切つたり、折つたり、貼つた
り、引つ張つたり、糸目をつけたり、尾をつけたり
大變です。今度は自分のを作つて頂けるかと、皆の
子供が丸い眼を見張つて待つ可愛らしさ。先生は急
がずには居られません。一つ、二つ、三つ、だんだ
んと風が出来上りました。頂いた人のよろこび。も
うぢつとしては居られません。手のあいた先生と一
緒にお部屋をどび出しました。生憎の雪解けで、庭
へは出られません。行く筈であつた、向ふの廣い乾
いた庭へ行かうには、今日は土曜日で、もうお歸り
の時間が迫つて居るので、其ひまがありません、と
う〜遊戯室で揚げました。揚る〜實によく揚る
誰のも、彼のもよく揚ります、氣持のよい程軽く、
素直に揚ります。揚げ手は、だん〜と殖えて來ま
す。赤と緑の尾を曳いた可愛らしい風は、小さい、
丸い手に引かれて、フワ〜と、恰度泳いで行く様
です。何と云ふ可愛らしい光景でせう。いつまで揚
げても際限がありません、そう〜長くお迎へを待
たせるのも氣の毒であります。風は先生が預つて、
又あさつてを約しながら子供は歸つて行きました。

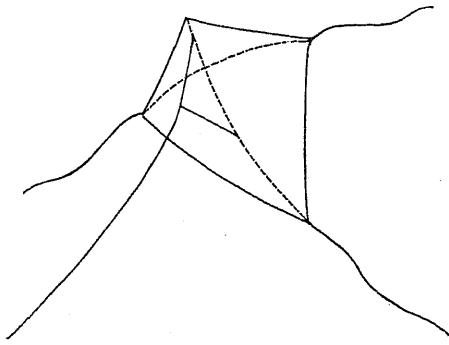
それからは、毎日々々風揚げで、夢中です、幼稚
園の庭で揚げる事もありますが、大抵は本校の廣い
日當りのよい庭まで出かけます。晴れきつた大空の
下で、小さい人達が小さい風を引つ張つて一生懸命
に駆けて居ます、冷たい冬の風は心地よげに、林檎
の様な其丸い頬を撫で、行きます、軟かい、悦びに
満ちた聲は、ここかしこに賑つてをります。何と云
ふ無邪氣な事でせう。

こんなにして風は毎日々々子供のお友達になりま
したので、だん〜と、くたびれて骨が折れたり、
尾が取れたり、中にはベツチャンコになつたのもあ
りました。しかし先生に骨接や、膏藥貼をして頂く
ので、まだ〜毎日元氣よく楽しい遊のお仲間とな
つてをります。

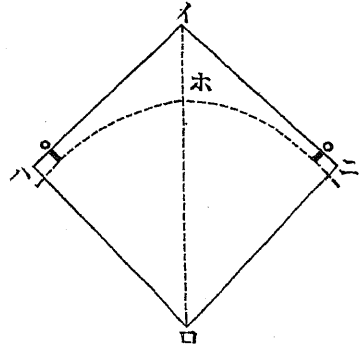
* * *
此風は私の先生から教へて頂いたもので、其作り方は極めて簡單
であります。もうとつくに御存知とは思ひますが序を以て一寸記し
て見ませう。

一、材料 Ⅱ 半紙一枚 籾(豆細工等に用ぬます細い竹)、色紙三筋
(尾に用ぬますもので、其内の二本は他の一本よりも少し短
かくします)、木綿縫糸(風の糸目及揚げる時の緒とします)。

一、作り方 Ⅱ 先づ左圖の如く半紙を眞四角に切りませう。



出
來
上
り



次に(ハ)、(ニ)の○印の所を四分か五分位切り込みます。

次に風を裏返しに(イ)、(ロ)及(ハ)、(ニ)に点線如く籤を渡します、但(ハ)及(ニ)の端は籤を紙よりも二三分長くしておきます。

次に(ハ)及(ニ)の初めに切り込んだ紙を籤の上に折り返して糊付にし、(ハ)及(ニ)の二ヶ所で籤をしっかりと留めます。(イ)(ロ)(ホ)にも各の上から別の小さい籤を糊付にして此二本の籤を動かさない様になります。

次には風の表から糸目をつけます、即七、八寸位の長さの糸の両端を、(イ)(ホ)の中央及(ホ)(ロ)の中央位の二ヶ所で籤に結びつけま

す、そして其弛んだ糸の上から三分の一餘りの所で小さい環を作るやうに其糸を結びます。其結んだ環へ長い糸を一本つなぎ其一方の端を糸巻に結びつけます。

次に風の裏から(ハ)及(ニ)の籤の端に一本の糸を結び付け其れをピンと引つ張つて風に張をつけます。

最後に(ハ)及(ニ)に短い方の二本の尾を一本づつ、付け(ロ)に長い方の一本の尾を付けます。之ですつかり出来上ります。

一、揚げ方と其時の注意―揚げます時には、糸を持つた手を伸ばし少し駆けます。糸を無闇に引きしやくりませんと却て揚りません。

それから子供は自分の後ろに揚つて居る風を見たまに駆けながらちよいと後を見ますから其場所と障礙物があつてはなりません。これはよほど注意を要します。又大勢の子供が同時に揚げます時には其駆け行く方向を一定して置く方が安全であります。

風よ吹け、風々あがれ、

あがれ、風々天までとっけ、

糸がゐるなら、いくらもやるぞ！
空に見ゆるか鳥か鷹か、

あれにまけずに、風々あがれ、

力がなければ加勢に行くぞ！

へる様になり夫に別れて子ある爲に奉公も出来かねて手近な死を選ばうと云ふ矢先に安心して子を引きとられて奉公に行けた女の人もあるさうです。

參觀した日は寒い曇つた日でした。が八疊敷位の暖い室に小さい寢臺が四つ位づゝ並び清潔な寢具や毛布にくるまつてすや／＼と眠つてゐる幼児もあり籐の寢椅子の布團の中から聲をあげてゐる口へ看護婦がさじで暖いミルクをつぎこんでゐるものもありました。衛生上の知識のない親達から重病に苦められて泣く子供を食べねばならぬ事に逐はれてこづき廻したり罵つたり毒々しい駄菓子等を與へられてゐる子供達がかく手當行き届いた世話をされるのは全く幸福と云ふより外はありません。文明と共にこの種の事業がもつと大規模になる事を祈ります。尙こゝの幼児の最も多い疾患は榮養不良で泣き聲さへ立て得ぬのや消化不良や呼吸器病が多いさうです。因に弘田博士は「獨逸あたりの託兒所は一都會をなす所には必ず一ヶ所ありそして副事業として牛乳の分配をもしてゐる。託兒所附の醫者が子供の年齢様子を見て牛乳のうすめ方や分量を適當にして母親に毎日與へ母親は十日に一遍位子供を見せに來てそれにより

醫者は又手加減をする事をやつてゐるが共立育兒會でもそれ迄やり度いが経費が許さないので實行出来ない」と語られました。

○電車の中で

淺草橋の停留場からどや／＼と乗り込んだ客の中で、子供連れの夫婦が隣りへ來た。夫婦とも男の子を一人宛れんれこで同じ様におぶつてゐる。髪をひつつめにして、洗ひざらしの袴で見ると、暮し向の程も思はれるが、手に笹の葉のついた竹竿を持つて、それにも中の皮の様なふわ／＼したもので出來た狐の面がぶら下つてゐる。えびす様の顔もある。巾着の形も下つてゐる。何れも毒しい畫の具の赤や青で光つてゐる。而も狐の耳は片方なくなつてゐるが、大方子供がほしがつて食べて見たもの、餘りのまつさに止したものだらうと思つて見た。夫の膝の新聞包でべつたら市の歸り客と見えたが、れんれこでおぶつて迄芋を洗ふ様な緑日やうな色づけをした駄菓子と見られる子供が可愛想だ。親の愛は深いに違ひないが、無智なのが痛ましい。

前に腰かけてゐる中學の生徒が突然立ち上つて退いた。見るとよれ／＼の絆でんに煮こめた手拭をこめて、病後でもあらう頭髪の薄くなつた五十前後の男が、腰かけてゐる。顔はと見れば全體青ざめて何となく腫れてゐるらしい、その中隣りの人へ尋ねた事は「富川町のりかへますか」。

無智も悲しいが貧も亦悲しい。そして無智と貧とはこの社會では親子相續してゆくのであらう。

(R子)

街上雜觀

み　ご　り

去年の暮のある日の午後、さる電車交又點で、急ぎ走る行人を、しつこく引きとめる救世軍の慈善鍋の關所を辛うじてのがれた二人の婦人が、電車待つ間の氣焔を、聞かまゝに。

* * * * *

甲「私は二三年このかたあの慈善鍋に對して、ひそかに疑問を懷くようになりましたの、そして、此頃では、自分の考がますます／＼はつきりして來ましたからあれにはお金を施すまいと思つてゐます」。

乙「そう、私も、あれは賛成してゐません。一體、貧民救濟といふことに、私は、もつと根本的な解決が必要だと思ひますの」。

甲「そうですとも、私の疑問といふのがそれなんです。あゝして毎年々々何千圓かのお金を多くの人から集めて、大骨折つて、そして何をするかといへば貧民にお餅やその他のものを與へて、彼等に楽しい正月を迎へさせるといふんですねえ。それは、結構

なことに違ひないんです。けれどもね、毎年々々うして、貧民を賑はすといふことが、それが貧民救濟の根本的なものとは思へませんのよ」。

乙「え、貧民はあそこから／＼どん／＼出來て來るぢやありませんか、今年、救世軍からお餅をもらつたから、或は聖書を一冊もらつたから、急に、心を入れかへて、又は運がむいて來て、來年は、その貧民窟を脱してゐるといふのならい／＼けれど、そんな事は先づありません」。

甲「それどころか、私は、あの餅くばりの弊害をどんなにか、嫌な、寧ろ腹立たしい氣分で聞いたか知れません。貧民の心理なんでものは、私達から考へると本當にさもしいと思ひますよ。だつて、貰へるとなれば、それをあてにして貰へば貰ひ得といふ考へであるのですもの。年の暮にお餅の五十錢や一圓買へないほどの貧民ならば、お餅をやるところか、もつと根本的に救つてやらなければならぬぢやあ

りませんか。もつとも、今は全くたゞでやるのでなく安く賣るといふこともきゝました。がそれにしてもまだ考へねばなりませんね」。

乙「こんな話もきゝました。貧民の中でも、心がけのよいのがあつて、平常よく働いて貯金して、年の暮には、繼ぎはぎだらけながらも穴のあかない著物を用意して、のし餅の一枚もついで、まあ新しい年を貧しいながらに迎へようといふのもある。すると救世軍の餅籠はそういふところには配られないんですつて。ポロ／＼の著物できたならしくうづくまつてゐる貧民の方が恩恵にあづかるのでせう。そうすれば、つまり、怠け者が勞せずして、お餅をもらふわけですもの」。

乙「私達だつて、一生懸命はたらいで、うつすべらなのし餅一枚買ふよりも、ゴロリとねてゐて、貰つた方がよいと思ふようになりますね、名譽心さへすてゝしまへばね」。

甲「そうですね。中には「それ救世軍が來た」といふと、急に家の中をとりちらして、目ぼしいものはかくしてしまつて、俄か病人をこしらへて、困つた様子をするといふこともきゝましたよ」。

乙「そういふこともあるでせうとも。一體お餅をたべなければ、年が越せないとか、お正月が來ないとかいふ考が私にはわかりませんが、そりや、昔からの美しい習慣ですから、それを無理にやぶらなくつてもいゝんです。が、慈善鍋が年中行事の一つになつてしまつては、折角の貧民救済も永久的のものといへないと思ひますの」。

甲「施すといふことは美しいことに違ひないんですけれども方法をあやまると思ひますよ。私の考へでは、慈善鍋から集まるお金を、その年々にお餅や消耗品にかへてしまはしないで、何か本當に貧民の生活状態を改善し、彼等の日常生活を愉快にする事が出来るように用ひたらどうかと思ふのですよ。そりや、一年だけの醸金で出來なければ、二年でも三年でもまとめてね。例へば、貧民窟のあの病氣の原因となる下水の改良だけでもどんなによいでせう。或は毎年少しづつでもあのトンネル長屋なんかを改築して行くとか、泥濘の道路をよくするとか一時に出來なくても、永久的救済法の道はいくらもあり、また必要ぢやないんでせうか」。

乙「そうですね。私いつか鮫ヶ橋へ行つて見ました

が、あそこは貧民窟といつても、かなり上等な方だつて聞きました。それでも大變ね。丁度雨あがりでしたが、まあきたない子供のうぢや〜せまい横丁や、壘一壘に何人もゐるんでびつくりしましたよ。あそこには二葉保育園といふのもあつて、子供の遊び場はあるんですが、それでもまだなか〜大變です。私託兒所のことにはよくはしらないけれど、あのきたない中にうづくまつてゐる子供等をあかるい気持ちのよい室に入れるだけでも、どんなに親も子も助かるかしれないんですね」。

甲「託兒所といへば、このごろ大分問題になつてゐるようね。先達も學校へ来た方の話によると、なかなか困難な事業ですつてね。第一そこに働く先生方がとてもつかないんですね。わづかの手當で朝から晩まで、貧兒の世話ですつてね、たい遊んでやるだけぢやすまないんですね。著物から食物から何から何までするんですね、そして一日中、虱の子供を抱いたりおぶつたりしてね。身體のつかれはひどいし、おまけに手不足でせう。自分の時間は少しもなし、夜は新聞さへよむ事も出来ない位つかれてしまふさうですよ」。

乙「それぢや、いくら獻身的だつて續くわけはありませぬね。元來が貧民窟の子供は暗い氣分で、氣がいらだつて手におへないのが多いんですね、それを世話する先生が、疲れきつてゐては、折角託兒所へ子供を收容しても、效果は少いわぢやありませんか」。

甲「だから託兒所の經營難といふことが問題になつて來るんでせうね。まあ、話がどん〜どんで來ましたけれどもね、つまり貧民の救濟といふことは私の考へではかう思ひますの、どんなに小さいことでもよいから永久的、根本的の計畫をしたいんです。そりや、すぐに何か施すといふことは、目の前に人がよろこぶので嬉しい事ですけれども、その時きりですものねえ。遠まわしの様でも、源へ源へとさかのぼつてやつて行けば、目立たなくて、結果はそんなにすぐ出て來なくつても、その方が永久的の方策だと思ひますよ。さうぢやありませんか」。

乙「もう、そろ〜あの慈善鍋でも、氣がつきさうなものです。誰か〜何か主張しさうなものぢやありませんか。そりや私達は世間がせまいから、よく事情がわからないで、こんな空論をいつてゐるのか」

もしれませんけれどもね。大に奮習打破で、「今年こそ餅くばりをやめてこの醜金を託兒所施設の資金にしよう」とか「無料治療所」をつくらうとか或はその貧民窟に相當した老幼にも出来る職業の紹介を施設をしようとか何とかありさうなものですのにね」。

甲「職業をあたへるといふことが、本當の意味の慈善でせうね。そりや、病人ばかりで何にも出来ませんといふ家は別として、老人は老人相當に子供は子供相當に何か仕事をして、その勞力に對して報酬を得るといふことが一番よいのでせう。勿論、わづかの勞力に多く酬いてやるといふことが貧民には必要と思ひますよ」。

乙「よく、乞食を三日するとやめられないつて云ひますけれどもね、人間が怠け心をおこしたらもう駄目ね。働くといふことから云へば、貧乏者の子澤山で、あゝいふ社會にはどうも子供が多くて足まどひがあるのですから、今あなたが仰つたやうに、子供等を晝間預つて、親達を充分に、働かせるといふことは、救濟の一番手近い、さうしてまた根本的な方法でせうね」。

甲「でも、橋の下の乞食に一錢二錢投げてやるとい

ふことは誰にも出来ずけれども、一つの託兒所をつくるといふことになる、一寸考へが及びませんね」。

乙「ですからさ、一人が一時に澤山お金は出せないから、あの慈善鍋のやうなやりかたで、大勢の人によくその趣旨をわかつてもらつて、わづかづかのお金を出してもらふのですよ。そして、年一年と實行してゆけばいゝぢやありませんか。五錢や十錢お鍋に入れるのは何でもありませんよ、だけれども、自分の主義に反對したことにそのお金がつかはれてゆくと思ふと、たとひ一錢でも出したくないんです」。

甲「それに、此頃のやうに、あり／＼とあのお餅くばりの弊害を聞きつけては、「あゝまた今年もこれが」と思つてしまひます」。

乙「今に、私達が考へてゐるやうな事が輿論になつて、その道の人も目覺めて、根本的な方法をとるようになる時が來ませうよ。そしたら私はお鍋にお金をいれるばかりぢやない自分でお鍋のまへにたつて人にも入れさせるようにしますよ」。

甲「あなたがお鍋のまへに立つたら、さぞ熱心に演説位お初めになりさうね」。

乙「まあ、ひどいこと。でも、お互にミリオチアでないから、かうした勝手なことも云つてゐるのね」。

甲「だつてミリオチアは百人の中たつた一人で、中産階級も一人で、あとの九十八人は貧民階級に属するといふから、私達も多数黨でいゝぢやありませんか」。

乙「まあ、貧乏してゐるといふ／＼理屈がいひたくなつていゝんですねえ」。

* * * * *

二人は何臺かの満員電車を見送つて、ふと〇〇行の車内に消えた
(二二、二三)

○編輯室より

○倉橋主幹は、豫定の通り更年と、ともに渡英されたと伺ひました。

したがつて此の後當分の問手紙の宛所は、英國ロンドン市、日本大使館氣付(C/o Japanese Embassy, London, England)となりま

○ おー寒む、こ寒む、

○ おー寒むこ寒む、山から小僧が飛んで来た、なんといつて飛んで来た、寒いとて飛んで来た、茶碗のかけで、あたまこつきりはつてやれ、

○ おー寒むこ寒む、山から小僧が泣いて来た、なんといつて泣いて来た、寒いとて泣いて来た、
(東京市)

○ おーさぶこさぶ、猿の甚平(羽織の名)がつてこう、子供は風の子、大人は火の子、
(大阪市)

○ おー寒むこ寒む、こ寒むのしりへ、氷がはつて、絲引きやばり／＼、
繩ひきやばり／＼。
(宇治山田市)

○ おー寒や、こと／＼山へ頭巾置いて来て、取にこがし、もどらうか、取りにいくのも寒いし、戻るも寒いし、馳の皮などがぶつてけ

(村尾氏の「童謡の中より」)
(四日市市)

少年音楽家 (八)

東京女高師教授 岡田美津

八、「せよ」するな

月曜日から民雄には新しい生活が始まつた——爲べき事と爲て不可い事とで一杯な妙な生活であつた。民雄は自分の面白いと思ふ事が皆不可い事で、不快だと思ふ事が皆爲べき事なの時には不思議でならなかつた。玉蜀黍島を鋤いたり、草を抜いたり、薪箱を一杯にしたりするのは皆爲べき事で林檎の樹の下に寝をべつたり、野の近くを流れる小川の奥を探つたり、土の中の蟲けらを眺めたりする——かういふ方は皆不可い事なのだつた。

新右衛門の方でもその月曜の朝思ひ掛けぬ經驗をした。その一つは、折角美しく生えてゐる草を抜いてしまつて枯らすのは惜しいといふ暢氣な民雄の考をうまく言ひ負かすのに骨が折れた事だつた。今一つは、雲が動いたり、花盛りの樹があつたり、梢で鳥が鳴いたりさういふ氣を散らすものを眼の前にお

いて子供に仕事をさせるのは之また骨が折れるものだといふ事だつた。

それでも民雄が爲べき事はし、不可い事は爲まいと一生懸命努めたので四時になつた時新右衛門が——(「厳しいが無法ではない」)——彼に暇をやつた。民雄は大よろこびで運動にいつた。雨氣だつたのでバイオリンは持たずに行つたが彼の顔、彼の歩調、彼の腕の揺れ方までが昨日の朝のあの歡喜の歌を彼に謠つてくれてゐるのであつた。今日は仕事だといつていゝんな事をさせられたけれども民雄の家戀しい、淋しい心には、世の中がああ嬉しい「おまへ、居ておくれ、おておくれ」の曲をまだ謠ひつゝけてゐてくれるやうに思はれた。

その内に民雄は鳥を見つけた。

彼は鳥の事を知つてゐた。山の家に、二三羽位友達にしてゐたのが居たので彼はその鳴き聲を聞きわけて返事をしてやる事を覺えた。その智慧に感心し

たり、その氣分を尊重してやる事も覺えた。彼は鳥のする事を見てゐるのが好きだつた。翼を擴げて活き／＼といかにも自由に空を切つてゆくその様が殊に氣に入つてゐたのであつた。

ところがこの鳥は！

翼をグツと擴げて風を切つてゆくのではなく畑の真中を登つたり降つたり妙な格好をして羽をバタバタさせてゐるのであつた。傍へ驅けていつて見て民雄は、ぢきにその理由が解つた。鳥は、長い革紐で、杭に緊と縛りつけられてゐた。

民雄は氣の毒さにどぎまぎして

「あら、あら！ さ、一寸俟つて御出で、今よくしてやるから！」

と彼は自分の力を信じきつて手早くナイフを取出して紐を切らうとした。併し「よくしてやるからと言ふ」のと「よくしてやる」のとは大分違ふものだと悟つた。

鳥は民雄を自分の味方だとは思はなかつた。此子も、自分をこんな目に逢はせたあの、石を投げたり鐵砲を打つたりする人間といふ奴の片割れだと認めたらしく、嘴だの、爪だの翼だのこの生意氣にも

いちめに來たらしい憎い敵に反抗た。民雄はやつと思ひついて上半衣を脱いで、怒りきつてゐる鳥の上から押被せてやつと近よつて目的を達したのであつた。そんなにしてさへ、鳥の脚には紐革がいくらか残つてしまつた。

やがて、鳥は羽音をさせて一聲怖れの音を放つたが忽ちそれを勇ましい勝利の聲に換へて空へ舞ひ上り、遠い梢を目掛けて飛び去つた。少年は悦ばしうに自分の事業の結果を眺めやつてゐたが、衣服をまた引かけて歩き出した。

民雄が歸つて來たのは六時近かつた。納屋の入口のところで彼は平藏に遇つた。

「ヤア、草取りは済ましたンかね」と平藏が元氣よく尋ねた。

「え！」と民雄は氣のない返事をして「してしまつたけれど、僕嫌だつたンです」。

「暑い仕事だからな」

「そんな事はかまはないンです」と民雄は答へて

「僕の嫌だつていふのは、綺麗な植木を引き抜いて枯らしてしまふ事なの」

「草——綺麗な植木、どうだい呆れらあ」

と平藏は絶叫した。

民雄は平藏の聲に嘲弄の調子があるのを聞き分け
て、

「だつて、綺麗なんですよ。此上なしに綺麗で此
上なしに大きいのがいつでもあるんです。新右衛
門さんが教へてくれてね、僕それを抜かなければ
ならなかつたんで」

「どうだい、呆れるなあ」と平藏は口の内でいつて
ゐた。

「でも、僕運動にいつて来たから気分がちツとよく
なつたんです」

「そうかい」

「え、よい運動しましたよ。あすこの山の森の中ま
ですつと入つていつたの。僕始終歌を謡つてゐた
んです—御腹なかの中で、すよ。こゝの御内儀さんが
—あの—僕に居てくれつていふから僕嬉しくつて
ね御腹なかの中で謡つてゐるつてどんなだか解るで
せう」

平藏は頭を搔いた。

「どうもよく解らねえんだよ。歌ふ方は得手ぢやね
いからな」

「聲を出して謡ふのと違ふ。御腹なか中での事、嬉し
い事があるぞ、そらさうでせう」

「嬉しい…事が？」平藏は立停つて口を開けたま
ま眼を目張つた。それから急に顔付をかへて解つた
らしくにや／＼して。

「あゝ御めへにや、かなはねい。さうよ、御腹なか中
が歌ふやうだな、何か素的に嬉しい事でもあるぞ
おれ今まで思ひつかずに居たぞ」

「解つたでせう、僕の歌、バイオリンで弾く歌ね、
あれは御腹なかの中で考へつくの。それから僕鳥にも
歌を謡はせましたよ、唯鳥は聲を立てゝ謡つたん
です」

「鳥がうたふ！下らねい！鳥が歌をうたふなんて
おらを欺さうたつてさうはいかねいよ」鳥だつて
嬉しい時は謡ひます」と民雄は頑張つた。「どうし
たつて怒つたり焦たりしてゐる時の聲と違ふもの
先刻さっきの鳥の聲を小父さんにきかせたかつたな。歌
つたんですよ。逃げられるやうになつたのが嬉し
かつたんですね。僕が紐を解いてやつたんです」

「森ま中で鳥を捕つたつていふだな」と男は疑つて
ゐるらしかつた。

「いえ、僕が捕つたのぢやない。誰かいつかまへて結ゆはひ付けて置いたの。鳥は困つてゐましたよ、」

「森中に括くくつてあつたつて、鳥が！」

「いえ、森の中に居やしない。山へ登らないうちなんです」

「鳥が括くくつてあつた！おい、御めへ、何を言つてるんだ、鳥が何處に居たんだつて」

平藏の態度が急に緊張し出した。

「向ふの島に、誰かがね……」

「玉蜀黍島か！やれまあ！あの、あの鳥に手を付けたんぢやあるめいな！」

「僕になか／＼手を觸ふけさせなかつたんです」と民雄は言譯ごんごをして「鳥ッてば怖おそがつてね。しやうがないから僕、頭から僕の著物かぶを被かせてやつと紐ひもを切つてやつたんです」

「紐ひもを切つてやつた！」といつて平藏は弾はじかれたやうに立ち上つて「御めへ——あの鳥を逃にがしたのか！」

民雄は思はず後まがへ下つた。

「え、さうなの、逃げたがつてゐたから、鳥は……平藏はがツくりと腰を下ろしてしまつた。」

「こんでもねい事をしてくれたな。親方は何といふか知らねいが、おら御めへに一言いひてい事がある。いゝか。おらはな、あの鳥を捕るツて、暇ひまが隙ひまがなねらつてよ、まる一週間かゝつたんだ。それもな、うまく、とらめいやうと思つて、夜中よなかから、翌くる日の晝前中叢中にひそまつてたからこそ捕めいられたのだ。ソソだけぢやまだ用はすまねいんで、あいつを括くくりつけるのが容易な事ぢや無かつたんだ。いまだにこゝにあいつの嘴くちばしのあとが残つてら。それを御めへが放しちまつたんだ——こんな風にチヨキンと」と彼は腹立たしさうに指さしを弾はじいて見せた。

民雄はちつとも後悔の様子を見せないで、なんて残酷さむらんなのだらう、うそのやうだといふ顔をして。

「あなたが態わざと括くくりつけたのですツて」

「えうよ」

「鳥はいやがつてましたよ。いやがつたのが解とらなかつたんですか」

「嫌いやがる！嫌いやがつたらどうするんだ。おらだつて自分の玉蜀黍が食はれてしまふのは嫌だ。御めへなそんな顔しておらを見なくつたつていゝやい。お

ら彼畜生にそんな、ひどい事しやしない——飛べるようにしておいてやつたぢやないか。空腹くもありやしねい。食物だつて、水だつてちやんと傍へ置いてやつたんだ。あいつが羽をバタバタやつたり、グン／＼引張つたり逃げやうとさへしなけれや何も困る事はありやしねい。あいつが、もがいたつておらの知つた事ぢやねい」

「でも、あなただつて跳んでせう、もし二つ大きな翼があつてその翼で向ふのあの大きな樹の上まで飛んでゆけて、それからもつ／＼上の空までもゆけて御星さんと話が出来るやうだつたら？」

あなたより百倍も大きな人がやつて来て、その柱へあなたの脚を結び付けてしまつたらあなただつて引張つたり跳いたりするでせう？」

平藏は怒つて真赤になつた。「こら御前に御説法してくれッていつたンぢやねいぞ。おらの爲た事はこゝいらの人が皆やつてゐるんだ——鳥をつかめへる程の腕の人ならば、鳥の盗賊めを追拂ふ道具としちやア、生きた鳥と帯に著物著せたのどぢや比べものにやならねい。おらがあの鳥つかまへたッてんで、こゝらの百姓ら

はそれや羨ましがつてら。それを、御めへがやつて来て、ナイフでチョンとやつてすかり駄目にしちまつたんだ、おら——心から腹が立つてならねい！といふ事よ」

「ちやあなたが他の鳥を嚇すためにあの鳥を自分で括りつけたンですね」

「さうども。あれに限るんだ」

「ま、ほんとに氣の毒ですね！」

「氣の毒がるのがあたりまへよ。そ言つたつておらの鳥が以前通りになるわけぢやないが」

民雄は晴やかに。

「さうですね。そこが嬉しいんです。僕は鳥の事を考へてゐるんですよ。氣の毒ですもの。あんな風に括りつけられたら私達だつて厭ですから……」

平藏は民雄をじつと視て鼻息荒く起ち上つて、さつさと家の方へ歩いていつてしまつた。

その晩民雄は一同に卒氣なく扱はれた。新右衛門の家に置いて貰へなくなる程の騒がもち上らないですんだのは御内儀さんの氣轉と根氣と歎願との御かげであつた。やつと追出されないうすんだものゝ民雄だつても自分が、かう早くみんなを失望させてし

まつたのを承知して情なく思つた。その晩のバイオリンはこの子の平常を知つてゐる人には不思議とおもはれる程悲哀の調子をふくんでゐた。

翌日民雄は爲べき事を皆忠實にしようとした。仕事はどれも上手に出来たといふわけでもなかつたが彼の努力してゐた事はよく分つてゐたので、怒りきつてゐた平藏も、すこし心が解けたらしかつた。新右衛門は四時に再び民雄に暇をくれた。

しかし民雄には氣の揉める事がまた出て來た。今日は捕はれてゐる鳥ではないが、それに似た可愛想な不思議千萬な事件であつた。

森の外れで、彼は二人男兒が鐵砲を肩にして死んだ栗鼠と兎をもつてゐるのに出遇つた。前日から催してゐた雨が降りもしなかつたので、この日民雄はバイオリンを携へてゐた。森へ入つたところでバイオリンを弾いてゐるとそこへ二人男兒がやつて來たのである。

「アッ！」

と思はず聲を立て、民雄は弾き止めてしまつた。

男兒等の方でも民雄とバイオリンを觀て、同様に吃驚りして立停まつてちつと視てゐた。

「バイオリンを持つてるあの宿無し子だせ」と一人が相手にカス／＼聲で囁いた。

民雄は、男兒の持つてゐる死んだ獸を哀れむやうに見て、慄えてゐた。

「それも——死んでゐるんですか」と彼は尋ねた。

大きい方の男兒が少し得意氣に頷いて、

「そうさ、鐵砲で打つたんだ——栗鼠の方は。兎はこの金ちやんが係蹄で捕まへたんだよ」

と言ひかけて、民雄が感心して崇めるやうな顔をするのを態々待つてゐた。

併し民雄の眼は感心して崇めるどころでなく恐れ呆れてうそかと思つてゐるらしかつた。

「君達が遠い國へ遣つてしまつたんですか」

「俺達が——如何したつて」

「遣つてしまつたのかツていふんです。遠い國へ、行かせてしまつたの？」

年下の方の少年はまだ眼を圓くしてゐたが、大きい方は小惡らしくにや／＼して。

「さうさ」手短かに平然と「さうだ、遠い國へ遣つたんだよ」

「でも、この獸達が行きたがつてゐたつていふのが

如何して分つたんです」

「行きたかつた？エ？」

と年上の少年は思はず口を出したが、またもつと悪しく齒を出して。

「あのね、實はね、僕等それは訊いてみなかつたのよ」

と嘲弄した。

民雄は心から情なさうな顔をして。

「そんなら君達は、ちつとも知らないんだ。あれ達
は行きたくなかつたのかも知れない。もし行きた
くなかつたのなら僕の父さんみたやうに歌ひなが
らなくて、とても行けやしない。父さんは遣られ
やしやなかつた。御自分で行きなすたんだ。そし
て謠ひながら去つて御しまいなすたのだ。でもこ
の獸は——君達だつて今誰か々来て、君達が行き
たいかどうかも知らないのに、遠い國へ君達を遣
つたらどうですか」

二人とも返事をしなかつた。不氣味な、奇體なも
のを見た時のやうに、眼に恐怖を示して二人ながら
横へくど外づれていつて、しまひに一目散に岡を
下へと走り去つた——時々怖さうに後を見返りく

獨り殘されて民雄は困つた、惱ましがな顔をして
歩いていつた。

日本幼稚園協會役員

會長 湯原 元一

主幹 倉橋 惣三

評議員(イロハ順)

乙竹 岩造。吉田 熊次。田子 一民。田中 ふさ。
乘杉 嘉壽。野口 援太郎。野口 幽香。安井 哲。
横山 榮次。藤井 利譽。下田 次郎。日田 權一。
弘田 長。菅原 敬造。

幹事(イロハ順)

井村 くに。池田 トヨ。坂内 ミツ。星野 樂。
和田 實。和田 くら。梶原 楯。土川 五郎。
奈良山 梅。向井 琴柱。黒瀬 艶。小向 きみ。
小山 はな。及川 ふみ。

謹賀新正

舊年中多大の御愛顧を奉深謝候

本年は大に奮勵活躍可仕候

倍舊の御引立を祈上候 敬白

株式會社フレイベル館

取締役社長 高市次郎

常務取締役 瀬川贊次郎

大正十年一月元旦

取締役 松澤宣雄

同 大森英夫

同 中川貢

監査役 山野井龜五郎

